

第2回 横浜市磯子区民文化センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	令和元年8月28日(水) 14時00分～15時45分
開催場所	磯子区役所6階601会議室
出席者	中島委員長(株式会社乃村工藝社PPP事業部PPPプロデューサー) 大野委員(和光大学 経済経営学部経営学科准教授) 寺井委員(磯子区文化協会 邦楽部 理事) 徳永委員(東京地方税理士会横浜南支部税理士) 三上委員(磯子区連合町内会長会副会長)
欠席者	なし
開催形態	一部非公開(傍聴者6名)
議 題	1 面接審査 2 審査・選定
決定事項	1 第2回委員会の一部非公開の確認について 第1回委員会で決定したとおり、議題1の面接審査(プレゼンテーション及び質疑応答)は公開とし、議題2の審査・選定は非公開とする。 2 指定候補者について 応募書類審査及び面接審査の結果、次の団体を指定候補者として磯子区長に報告する。 ・ 指定候補者 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団/特定非営利活動法人チーム杉劇/ 有限会社アイコニクス/株式会社ニックスサービス 共同事業体
議 事	会議の公開・非公開について、第1回委員会で決定したとおり、面接審査を公開とし、その後の審査・選定は非公開とすることを確認した。 事務局から、応募は1団体で、応募者資格の欠格事項に該当しないことについて報告した。また、面接審査は団体名をブラインド化し、「団体A」として実施することを確認した。 1 面接審査 応募団体のプレゼンテーション15分間、質疑応答20分間程度で実施。 【団体A】 (1) 団体Aによるプレゼンテーション 事業計画等について説明があった。 (2) 質疑応答 (委 員) 「いそご文化円卓会議」について、もう少し詳しく教えていただきたい。また、この成果については、いつ頃出るのか、併せて教えていただきたい。 (団体A) 磯子区民文化センターは、「杉劇アートde伝承プロジェクト」という事業を実施している。「杉劇アートde伝承プロジェクト」については、地域の文化資源等を後世に残していくための事業であり、様々な取り組みを複合したものである。その中の取り組みの一つが、「いそご文化円

卓会議」であり、この会議では、図書館長や元社会教育関係の方、福祉関係の方など磯子区内の様々な情報を持っている方にお集まりいただき、磯子区民文化センターの事業について、アドバイスをいただいている。平成 30 年度末には、そのアドバイスをもとに、同じく「杉劇アート de 伝承プロジェクト」の中の取り組みである「いそご文化資源発掘隊」の企画にて、美空ひばり生誕 80 周年ということで、「旧杉田劇場の思い出」という座談会を開催し、大変好評だった。

また、「杉劇アート de 伝承プロジェクト」は、一般財団法人地域創造の「地域の文化・芸術活動助成事業」にて、平成 30 年度から令和 2 年度まで助成金をいただいております。来年度、事業のまとめに入ることで、その結果を踏まえ、今後の文化振興に生かしていきたいと考えています。

(委員) 各使命において、指標が設けられており、各々に目標数値を設定しているが、この目標数値に設定した根拠を教えてください。

(団体A) 私どもは、他の施設も運営しており、基本的には、その実績から数値目標を算出しているが、各目標数値については、かなり高い数値を設定している。

例えば、使命 1 の定量指標②の目標数値である 30%については、かなり厳しい目標数値となっている。通常、鑑賞型事業のアンケート回収率は 10%を切っており、これは、どの施設でも例外ではない。また、ワークショップ型の事業については、100%近いアンケート回収率になるが、区民文化センターの事業は、鑑賞型事業が多いため、鑑賞型、ワークショップ型を合わせた全体のアンケート回収率は低くなり、目標数値としては、厳しい設定となる。

しかし、私どもは、お客様の声は有効な資源であると考えており、それを集め、今後の運営に反映させることが大切と考え、あえて厳しい目標数値に設定している。

(委員) 防災の取組について、施設を利用した際に感じたことだが、来場者に対し、避難経路などの防災に関する説明を職員の方があまり行っていないように感じた。今後、施設利用者に対し、それをうまくお知らせする工夫を考えていれば教えてください。

また、防犯については、提案書の中に「ふらっと来る人が増えて」という記述があり、あったかい感じがして良いとは思いますが、誰もが気軽に立ち寄れる場にするによって、不審者が気軽に来場できてしまうことになるが、そのあたりの対策はどう考えているのか教えてください。

(団体A) 現在、全職員が、お客様に対し、避難経路などを御案内できる訓練はできている。今後は、施設利用者に対する説明を積極的に行い、必要な情報が伝達できるよう改善していきたい。

防犯については、現在、本劇場は、警察の防犯連絡所になっており、警察が巡回する回数も増やしてもらっている。また、らびすた新杉田の

近くにある杉田交番とも連携を密にとっており、警察との関係が良好であるため、危険人物がいた場合は、躊躇なく 110 番できる体制が整っている。

その他、らびすた新杉田の防災センターとも連携をとっており、不審人物がいた際にはそちらにもすぐ連絡し、駆けつけてもらえる仕組みが確立されている。

については、安全性という意味では、確保できていると考えている。

(委員) 指定管理料に依存しない収入構造について、努力されるというお話があったが、今後、5年間の試算を拝見させていただくと自主事業については、収入よりも支出の方が多くなっている。以前からそういう体制だと思うが、今後、同じ赤字が5年間続くとなると、収入が増えたとしても、それに伴って支出が増えてしまうことになり、あまり意味がないと考えるがいかがか。

(団体A) 区民文化センターの事業は、ホールの客席が 300 席程度ということもあり、収支を成立させるのは非常に難しい。区民文化センターの鑑賞型事業の入場料は、およそ 2000 円から 3000 円程度となっており、一方で出演者の報酬というのは、300 席満席ということになると、それなりのアーティストを呼んでくることになり、報酬と収入が追いつかなくなる。しかし、そうは言いながらも、鑑賞型事業は収支均衡で実施していかなければならないと考えている。

ただし、ここ数年、文化芸術基本法の改定などにより社会的包摂という考え方を取り入れた事業も積極的に実施していくという流れもあり、ホールの中での事業だけではなく、外に事業を開いていくということも重要になってきている。しかし、そうするとなかなか収入が見込めないということにもなる。このあたりを実践していくと、自主事業の収支が、おそらく良くて均衡程度になってくるので、そのマイナス面を利用料金収入などでどう補うかというのが、今後の課題だと思っている。

また、この自主事業収入には、協賛金・助成金が含まれているが、現在、横浜市内にある 10 箇所の区民文化センターで、毎年、協賛金・助成金が獲得できているのは、磯子区民文化センターのみとなっている。

委員がおっしゃるとおり、自主事業の収支を厳しくみなければならないといのは事実だとは思いますが、この収支でも、かなりせいっぱいの数値であるという認識ではいる。

(委員) 収入は増やすが、収支は5年間変わらないというイメージであったので、これでは改善にならないのではないかと思った。

これからは、人件費も上昇してくるので、そのあたりも見越して見直しをお願いしたい。

(団体A) 当然、人件費の上昇は想定している。賃金スライド方式が導入されているが、それ以外でも、自立してそれらを補える収入を確保していかなければならないと思っている。

(委員) 土日は、施設の利用率が高かったように認識しているが、平日の利用率を上げる工夫について、案があれば教えていただきたい。

(団体A) 平日のホール利用に関しては、セット料金のようなものを設けて、少しでも安く利用できる環境を整え、学生などを取り込めるよう、提案書に記載させていただいている。

また、現在、町内会や事業会などにもお声掛けし、会議室等の利用促進を図っている。しかし、会議室が無料という近隣施設も多く、そちらへ利用者が流れてしまう傾向がある。しかし、引き続き、企業などにもお声掛けをし、利用率の向上に向けて努力していきたいと考えている。

(委員) 会議室、リハーサル室の利用率が全体的に低かったと思うが、これを改善するために考えていることがあるか教えていただきたい。

(団体A) 会議室については、現在、らびすた新杉田内のドコモショップにお声掛けをし、初心向けのスマートフォン講座を実施してもらうなど、利用率の向上に努めている。

リハーサル室については、楽器の練習などにも利用していただける部屋になっているので、今後、大学の軽音学部などにもPRを実施し、利用率の向上を目指していきたいと考えている。リハーサル室という部屋の名称からリハーサルでしか使用できないと思われる部分もあると思うので、そうではなく様々な用途で使用が可能であるということうまくPRしていきたいと考えている。

(委員) 区民文化センターの活動も踏まえ、地域課題を明確に特定し、運営をリンクさせ、解決していこうという姿勢は評価できるが、最後にこのような施設の運営に関わる団体として、次のような考え方や取組も取り入れていただきたい。

まず、継続的な活動はしているが、その上でもっと若い層を取り込む努力をする必要があると思う。少子高齢化という現状があるが、それでもやはり若い人の声をどう反映させていくのかは重要である。さきほどプレゼンテーションの中で、大学生の単位取得を含めたインターンシップを受け入れているという話があったが、そのような活動をどんどん実施し、若い人の感性や感覚を取り入れ、生かしていくということが、子どもたちや高齢者にとっても良いことだと思う。ついては、そこはもっと積極的に取り組んでいかれることを期待したい。

また、防災・防火・防犯についても、より一層しっかり取り組まれた方が良いと思う。特に防犯については、日常警備はしっかりやられていると思うが、人が集まる場所なので、より一層の防犯体制の確立というのは大切である。そのためにも、施設全体で防犯訓練などを実施した方が良い。全スタッフで課題を共有しておかないと、いざというときに対応ができない可能性もある。具体的には、刺又や催涙スプレーの使い方などそういうところまで踏み込んだ実践的な訓練をしていかないとお客様を避難誘導することができないと思う。

最後に、収支の部分だが、これからも良い活動を拡大・継続していくためには、もっと収入が必要となるので、収入を増やす努力をもっとしていただきたい。

(団体A) 承知した。

2 審査・選定

【応募団体の財務状況について】

委員から応募団体の財務状況について説明があり、施設の運営には問題のない財務状況であることが報告された。

【審査結果】

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／特定非営利活動法人チーム杉劇／
有限会社アイコンクス／株式会社ニックスサービス 共同事業体 (団体A)
786 点

満点：1025 点 (応募団体が現指定管理者である場合の管理運営実績を含む)

最低基準点：600 点 (200 点×5 人=1,000 点の6割)

最低基準を満たしており、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／特定非営利活動法人チーム杉劇／有限会社アイコンクス／株式会社ニックスサービス 共同事業体を指定候補者として選定し、磯子区長へ報告することを決定した。

【委員講評】

提案書は良く書けており、多くの事業を実施・提案している点、アウトリーチ型の事業が増えている点、現指定管理者として利用者等との良好な関係性が築けている点等は評価できる。

提案内容全体については、現指定管理者ということもあり、新規性をどう打ち出すかというのが、次期の提案として非常に重要だったが、ベテランであるがゆえの安定志向になってしまい、新しい発想が生まれづらくなってきているのではないかと感じた。これまでの運営の延長であっても、今までどおりでは困るということはずいぶん御理解いただきたい。

また、提案内容を見ると、磯子区の中でこじんまり活動を行っているように見えるので、今後は、もっと広範な連携をエリア内外で行い、新しい息吹を磯子に入れることで、磯子区をより良くしていくという力強さを出して行ってほしいと感じた。

「公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／特定非営利活動法人チーム杉劇／有限会社アイコンクス／株式会社ニックスサービス 共同事業体」が磯子区民文化センターの指定管理者となった場合は、今一度、磯子区民文化センターが設置された本来の目的を捉え施設を運営して行っていただきたい。

	【その他】 磯子区長への報告書の作成、会議録の確認は委員長に一任する。
資 料	1 委員会タイムスケジュール 2 応募団体からの提出書類（1団体分） 3 現指定管理者運営実績評価資料